

第 43 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

開催記録

1 開催概要

- 日 時：令和 6 年 5 月 8 日（水）10：00 ～ 12：00
- 場 所：JR 東日本 品川開発プロジェクトマネジメントセンター
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 元教授）
委員	・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・ 東京都 交通局 建設工務部 計画改良課 ・ 独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・ 独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部 ・ 京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 ・ 京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部
事務局	・ 京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

- 当日配布資料

部会②

- ・ 次第
- ・ 資料 1：調査の進捗について

2 議事要旨

2.1 部会②

(1) 開会

- 第 43 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会②を開会する。(事務局)

(2) 調査の進捗について

- 説明する。(都教育氏)

(3) その他

- 資料 4 について説明する。(事務局)

(4) 閉会

3 議事録

3.1 部会②

(1) 開会

(委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査の進捗について

(港区) 資料 1 を説明する。資料 1-1 概要を示す。今回の報告は南横仕切堤の南側の JR 線側の連壁の部分となる。南棟に係る連壁の C である。A と B は第 38 回で報告しており、工事が進んでいる。資料 1-2 に示す通り、今回は試掘 1 とあるトレンチ、23 本のボーリングの調査となる。試掘 1 では途中で番線でくくられた木製構造物やガラス片が出てきた。これらは後世のものであり、撤去して調査を進めた。土層断面で、GL は T.P.2.8m くらいとなる。整地層と記載する層の下グレーの層は、3 工区でも確認された明治後期以降の盛土となる。この中に木製構造物やガラス片が含まれる。赤線で囲う範囲がおそらく築堤が西側に拡幅した際の盛土の一部になると考えている。明治 5 年当時の第 8 橋梁付近の絵図より、築堤の国道側は溜池になっていて、明治 20 年になると陸地が広がっていくことが古地図で確認できる。試掘 1 では想定のもので出てきたと考えている。資料 1-3 にボーリング調査結果の柱状図を示す。番号は着手順である。全てのボーリング位置で盛土層（黄褐色粘土）が見られ、その下に泥土が見られ、その下に貝交じりのシルトがあり、その下に黒色粘土層、その下にオリブ色の粘土層が入り、その下に硬質粘土層が存在する。ただし 1～4 街区の硬質粘土層よりも締りが弱いと思われるので？を付けている。木片がいくつか確認されているが T.P.-3～4m なので、人為的ではなく流れ着いたものと考えている。No.22・23 は木片混入層があるがこれも人為的ではないと判断している。何かが溜まりやすい場所だったのではないかとと思われる。資料 1-4 はコア写真の一覧である。資料 1-5 で、南横仕切堤の近接築堤部の調査結果と工事内容の関係性をまとめた。盛土 A とある築堤と思われる構造の端部の分布状況を確認できる。今回の工事計画は、この盛土 A を切り取る工事になることが分かる。できれば盛土 A への影響を回避してもらうような検討をお願いしたいと港区として考えている。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 南棟の海側の連壁の打設になる。高輪築堤の裾の部分把握するため

に行った。従来、連立 1 工区の盛土 A の西側の裾、恐らく複線化期に拡幅されたものとなるが、西に広がっていることが明らかになっていた。今回の調査結果についても、地形図で確認する以上に西に広がっているということが確認できた。柱状図の黄褐色粘土とあるのが盛土 A である。この裾の部分がボーリングでも確認されたという理解でよいだろう。

(小野田委員) 資料 1-3 の柱状図で、No.3・4 が他と異なるが解釈はどうなるか？
(港区) 5、6、9 は自然堆積層になる。

(小野田委員) 色が異なる部分だけ、例えば電柱などがあって掘り返した跡になる、などの解釈の整理が必要かと思う。

(港区) 了解した。

(委員長) 今回、土留めのような木片は確認されなかった。問題になってくるのは、築堤の裾の部分のカットするように連壁を打設することを可とすべきかどうかである。連壁については以前、一部トレンチを入れて対象を確認してから、杭の数を減らすなどして承認したという経緯がある。今回、何等かの支障物が出てきた場合、想定していない遺構などが出てきた場合、改めて検討する必要があると考えてもらいたい。現状としては、連立一工区の例も踏まえて、今回の連壁の打設を可とすることとしたい。これだけの数のボーリングを打ってもらった結果、構造物は確認できなかったので恐らく大丈夫だろうと思われる。よろしいか？

(委員一同) 異存なし。

(都教育) 1 工区の際は軽減措置を考えてもらった。今回の場所は JR 線に近接していることもあり、調査のための広いヤードを確保できる場所ではない。工事に当たり想定外の意向が出てきた場合は立ち止まるという条件で、工事を進めてもらってよいもの考える。

(委員長) それでは、本委員会としては工事を認めるということとする。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(3) その他

(委員長) その他は何かあるか。

(4) 閉会

(委員長) 他になければ部会②を閉会とする。

以上